【イースター Easter】

10 月のハロウィンに次いで、日本でも知られつつある「イースター」、みなさんはイースターと聞くと何を連想しますか？パステルカラーの卵でしょうか、それともウサギ？これは一体何のためのものなのでしょう？

実は、イースターはイエス・キリストの復活を祝う復活祭で、キリスト教徒にとってはクリスマスと同じくらい大切な行事です。このイースターは春分の日以降最初の満月の次の日曜日と定められているため、毎年変動します。キリスト教圏の国ではその前後数日間は休暇となり、家族や友人と集まってイースターをお祝いします。

イースター（Easter）とは英語の名称ですが、ゲルマン民話に登場する女神「エオストレ（Eostre）」をお祭りしたことに由来すると言われています。もともとは長く暗い冬の後の春の訪れを告げる祭りで、大自然の生命の復活を祝うためのお祭りでした。そこから始まり、今日ではイエス・キリストの復活をお祝いする日となっています。それでは、どうして卵やウサギが登場するのでしょう。この女神エオストレは春の女神で、手には命のシンボルである大きな卵を抱え、子孫繁栄・多産の象徴であるウサギを従えており、エオストレのウサギが復活祭の前日に卵を運んできてくれる、という言い伝えから、イースターには卵とウサギが欠かせないモチーフとなったのです。

いたずら好きなエオストレのウサギは卵を隠してしまいます。そこで、復活祭の朝に子ども達は隠されたイースターエッグを探します。イースターエッグはチョコレートでできたものや、キャンディやお菓子を詰めたプラスチックのものと様々です。また、プラスチックの卵の中にお金が入っていることもあります。誰が一番たくさん卵を見つけることができるか競争するのが、子ども達の楽しみです。

女神エオストレの名前は「あけぼの」も意味します。そういえば、太陽はイースト（東）から昇りますよね。ゲルマン系の言語である英語では「Easter （イースター）」、同じくドイツで語は「Oster （オスターOst=east）」といいますが、ラテン語系のスペイン語では「Pascua （パスクア）」、ポルトガル語では「Pascoa（パスコア）」、フランス語では「Paques（パク）」といいます。これはラテン語やヘブライ語で「越える（英語の pass）」と関係があり、キリストの死と復活がユダヤの「過ぎ越しの祭り」の時期であったからだといわれています。

クリスチャンにとっては重要な宗教行事でもありますが、春を迎え、新たな自然の命の誕生をお祝いする、という意味においても、とても大切な日なのです。ちなみに 2015 年のイースターは４月５日です。